

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 55号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2010. 5. 20
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

「ありがとう 100回運動」推進趣意書

私たち鳥取県青少年育成アドバイザー協議会は、次代を担う青少年の育成は大人の責任であり、国家・社会の使命であるとの考えから「大人が変われば子どもも変わる」を合言葉に「地域の子どもは地域で育てる」運動を続けてきました。

そんな中で、大人の生活を省みて、気がつきませんでした。私たちは一日に心からの「ありがとう」を何回言っているのでしょうか？

サービス業の方をはじめ、職業的に言っている場合を除き、日常生活の中で、心からの感謝の言葉を、どのくらい使っているのでしょうか。

個人が尊重される民主主義と豊かな経済社会の中で、いつしか自分中心の生活が身に浸み込んで、自分の思うようにならないと、不平不満を言ってしまうのではないのでしょうか。

自己主張をするあまりに、自分が悪いのではなく、相手や社会が悪いと思っているのではないのでしょうか。あまりにも自分勝手に生きているのではないのでしょうか。

人間は一人で生きているのではなく、家族は勿論のこと、職場や地域社会の人々がいないと生きていけないのに、いつしかこのことを忘れ去ってしまっているように思います。

そればかりか、大自然の恵みを受けて私たちの命が生れ、保たれていることさえ忘れてしまい、これらへの感謝の心も無くして、破壊しているのではないのでしょうか。

私たちは、現代社会にある様々な不幸の根源は、感謝の心を失ってしまったことにあるのではないかと考えています。

家族や友達、さらに自分を育て、教え導いてくれる周囲の人たちを敬愛し、天・地・人の恵に感謝し、日常生活の中で、心から「ありがとう」と感謝の言葉が溢れるようになれば、心身ともに健全な青少年の育成が図られ、全ての人々が明るく幸福に暮らせる社会が実現すると確信しています。

そのため、先ず私たち大人が、心からの「ありがとう」を言える自分になるため「ありがとう

100回運動」を提唱し推進する決意をいたしました。

一日に100回、心からの「ありがとう」が言える自分になれば、何と幸せでしょう。

この趣旨に賛同いただき、私たちと一緒にこの運動を推進いただくことを願い、「ありがとう 100回運動」を提唱します。

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

会長 山本 邦彦

事務局

〒682-0702

東伯郡湯梨浜町橋津 261

菊澤慧昭 (TEL 0858-35-3735)

「ありがとう 100回運動」推進要綱 (案)

- 1、この運動を推進するため、この要綱を定める。
- 2、この運動は平成22年4月1日から推進する。
- 3、この運動は、本会会員が自ら実践するとともに、この運動に賛同する者と共に推進して、趣旨の実現を目指す。
- 4、推進の方法は、柴山抱海先生の本を元にステッカーやシールを作成して、目につきやすい所に貼って啓発・実践する。
- 5、趣旨に賛同する者(団体・事業所)の名称をステッカーやシールに印刷し、共同して推進する。印刷に係る経費は賛同する者からの負担を受ける。
- 6、その他、推進にあたっては、その都度、効果的な方法を開発し、啓発・実践する。

ありがとう



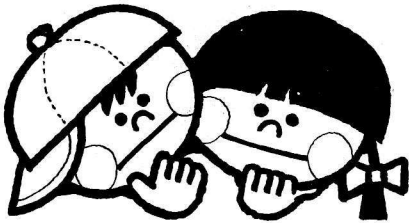
万木 秋弘

「ありがとう100回運動」についてですが、先般、シール、ステッカーを作り、会長その他役員様によりTV・CVT・新聞等マスコミに対しての広報はスタートしましたが、一般社会の人々に広く周知していくのは、これからの活動にかかっていると思います。

具体的な活動方法については、運動の対象となる人々(大人・子供・若者・老人等)、地域(県内・県外)、時間期間(何時から何時まで)等を再度絞りこみ、最適な方法と方策を検索し展開していかねばならないと思います。

今後それらについては、会員皆様からの具体的なアイデアを募り、意見交換を重ねて行く事が必要不可欠かと思えます。個々、協会会員のみの力は小さくても周りを巻き込んで行くような運動を展開しなくてははいけません。

頑張っていきましょう。



藤井 久美

「ちょっと…」気になる家庭があり、その家の中へ入るのに何か手立てが無いかと思案…

まず、子どもと仲良くなってやろうと思い、朝の登校の交通当番に立つことにして、早くも3年経ちました。その家庭とは、親とも話が出来るようになりました。

さて、子どもの登下校を見守りながら、「おはよう」「気をつけて行ってらっしゃい」「おかえり」等声かけをします。

すると、ある日、子どもの方から、「ありがとうございます」の一声が返ってきました。何と嬉しかったことか。ニッコリ笑顔付きで…。それを私が「嬉しい。」と言うと、他の子も返してくれるようになってきました。

これでまた、立ち当番・見守りが辞められなくなりました。

私は、退職公務員連盟の西部米子地区のお世話をしているので、組織を通してアピールしています。

5月29日には、総会の予定ですので、「ありがとう100回運動」、更に声を大に『明るい社会』あったかい関わりとして、話したいと頑張ってます。小学校にも働きかけたいと思っています。

資金が捻出できたら、ポスターが欲しいですね？



何事も実践しなければ意味がない

「そ・わ・か」の法則 小林生観

より抜粋

よく「感謝は心の中で思っているだけではダメなんですか」と言う人がいます。

それは、「心の中でトイレ掃除をしているんですけど」と言うのと同じ。どんなに汚いトイレを綺麗にしたところを想像したって、それだけではダメでしょう。

ダジャレを聞いて、面白いと思ったのだけど、心の中で笑って、顔は怖い顔をしていたというのも「笑わなかった」ということ。

「感謝」も、言葉に出して「実践」になります。心で思っているけれど、口に出さないというのは実践になりません。「ありがとう」と感謝を感じたら、それを口に出して言うほうがいい。

ですから、誰かがお茶を入れてくれたら、それに対して「ありがとう」を言う。「ありがとう」と心の中でいつも思っているけど不機嫌な顔をしているというのは、外から見ると「不機嫌」といいます。「ありがとう」と思ったら言うほうがいい。

「結婚して三十年もたつたのだから、今さら言わなくてもいいんだ。だいたい結婚してからこういうことがあって、あんなこともあって」と、それについて言い訳を十五分間もした人がいました。それだったら「ありがとう」とパッと行ってしまえば二秒ですんだのです。

次ページに続く

たとえ心がこもっていなくても、お茶をいれてもらったら毎回「ありがとう」と言うほうがいい。

心で感謝しているけど、口に出さないという人よりは、ずっといいと思います。

心がともなわなくても実践は実践です。実践とは、外に表すこと。表現することです。

トイレ掃除も、自分の体を使ってすることが「実践」。笑うことも、心の中で面白いと思っただけではなくて、顔に出して表現することが「実践」。感謝も「ありがとう」と声に出して言うことが、「実践」と言うことになります。

サンマーク出版「そ・わ・か」の法則より



がんばれ！！

東 邦子

私には三人の孫がいます。三人とも外孫です。下の娘の子どもに、幼稚園年中さんの孫がいます。今日は、昨年あったこの孫のお話をさせて戴きたいと思います。

昨年10月に幼稚園の運動会がありました。園舎の建て替えの為に小学校のグラウンドを借りての運動会でした。園庭と違って広い小学校の運動会でしたので、隅っこの方でコチョコチョとやっているように見えたが、これで園庭と同じ位のかなと思いつつ、観客の後ろの方で見せて頂きました。

プログラムを見ると、孫の出番でしたので、カメラを構えてスタンバイしていました。この種目は、大人の障害物競走のようなもので、平均台の上を渡り、網をくぐりぬけ、風船を叩いてゴールするというものでした。

1組、2組、3組…と進み、順番を待っている孫を確認し、カメラアングルの良い場所に移動しました。笛が鳴って園児が走っています。

アレ？孫の姿が見えないのです。見間違ったのかなー？イヤ、確かに居たよなー…最後らしい子どもがゴールに入ってきました。

向こうの方の観客の方が手を叩いています。何だろうと思って目を凝らして見ると、孫がトボトボと今にも泣き出しそうに歩いています。平均台

を渡り、網をくぐり、風船を叩き…いつ泣き出して止めるのだろうと思いつつ、手に汗を握っていましたが、止めることもなく、走ることもなく、長い時間をかけてやっとゴールにたどり着きました。

会場は、われんばかりの拍手です。

よくやった！ 涙が出そうになりました。

孫はこの暖かい拍手をどういう思いで聞いていたのでしょうか。「よく最後までがんばったね！」

以上のような出来事があり、12月には発表会がありました。運動会の二の舞かなと思いましたが、しっかり自分の持ち役を果たすことができました。

この出来事は、孫の中でも大切な思い出になったことだと思います。

何故、このような行動をしたのかは今も謎です。孫が走り終えるのをじっと待って下さった幼稚園の先生方にも感謝いたします。

(東様、随分前に原稿を送って下さっていたのですが、ようやく発行できました。本当にありがとうございました。)



編集後記

本当に本当にお久しぶりです。

天気も世間も何かと落ち着かない日々ですが、皆様お元気でしょうか。

この度、ようやく通信を発行することができました。これも「ありがとう100回運動」のお陰と、嬉しく思っています。原稿を送って頂いた皆様に感謝いたします。

今後はしばらく、この「ありがとう100回運動」を特集していきたいと考えています。日々の何気ない「ありがとう」をいっぱいお知らせください。

お待ちしております。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(word で入れてください)